

一般国道4号 しちのへ 七戸バイパス

【開通 5 年後の整備効果資料】

平成 2 8 年 5 月 1 7 日
国土交通省 東北地方整備局
青森河川国道事務所

1. 事業の目的と概要

○事業目的

- ・七戸町内の交通混雑や隘路区間の解消
- ・安全で円滑な交通の確保
- ・広域交流の促進

○計画概要

起終点 : 自) 青森県十和田市大字大沢田字北野
 至) 青森県上北郡七戸町字荒熊内

延長 : 5.7 km
 幅員 : (暫定) 14.5 m
 (完成) 28.0 m

道路規格 : 第3種1級
 設計速度 : 80 km/h
 都市計画決定 : 平成元年度
 事業化 : 平成元年度
 用地着手 : 平成6年度
 工事着手 : 平成7年度
 全線開通年度 : 【暫定】平成22年度 (H22.11)

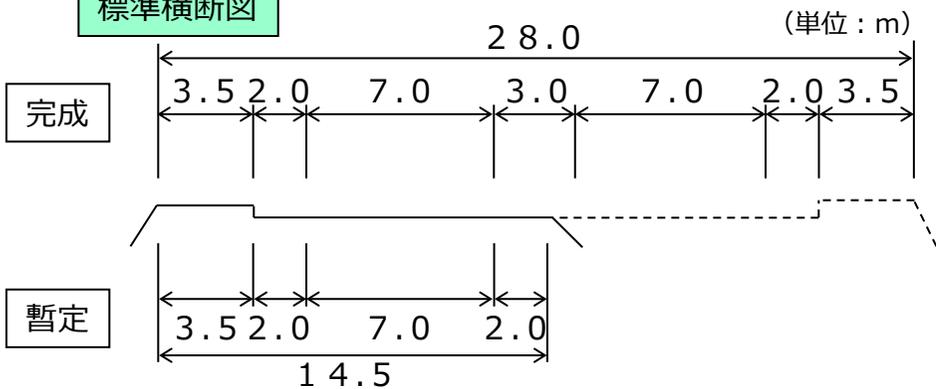
位置図



平面図



標準横断面図



※交通量はH27.7調査

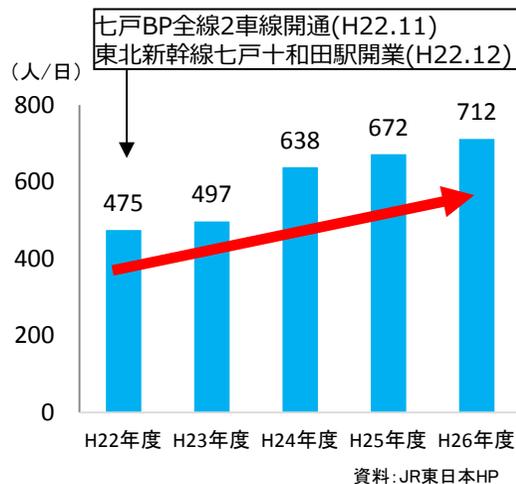
2. 事業効果の発現状況（1） 広域交流の促進

- ◆東北新幹線七戸十和田駅で下車した県外観光客は、レンタカー等の2次交通に乗り換えて下北地域や十和田市等の観光地を訪れている。
- ◆駅開業の1か月前に開通した七戸バイパスにより、七戸十和田駅へのアクセス性、利便性の向上が図られ、広域観光の支援及び観光活性化に寄与している。

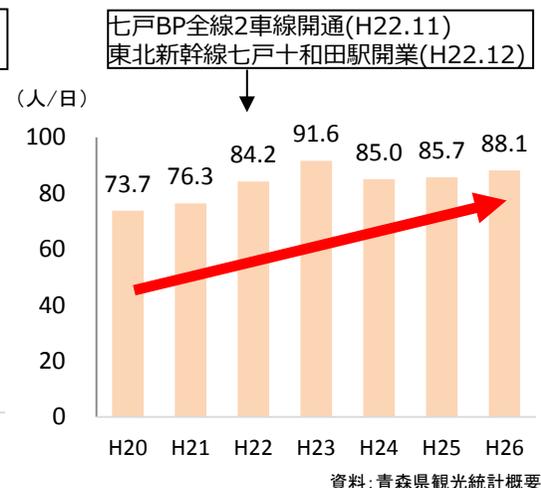
▼ 七戸十和田駅利用者（県外）の観光目的地



▼ 東北新幹線七戸十和田駅の平均乗車人員



▼ 七戸町の観光者数（主要観光地合計）の伸び



＜十和田市役所観光推進課の意見＞



- 十和田市から七戸十和田駅まで以前は30分程度かかったが、バイパス開通後は20分に短縮し、**定時性も確保され、安心感が増した。**
- 仙台出張の際は、遠くなる方向だが、バイパスができて近くなり、**時間が読めることから、七戸十和田駅をよく利用**している。
- バイパスを出てすぐ駅があるということが、利用者・案内する側の双方にとって良い印象であり、**バイパスの恩恵を感じる度合いが大きい。**

(H28.1 ヒアリング結果)

2. 事業効果の発現状況（2） 農産品の輸送効率化・品質向上を支援

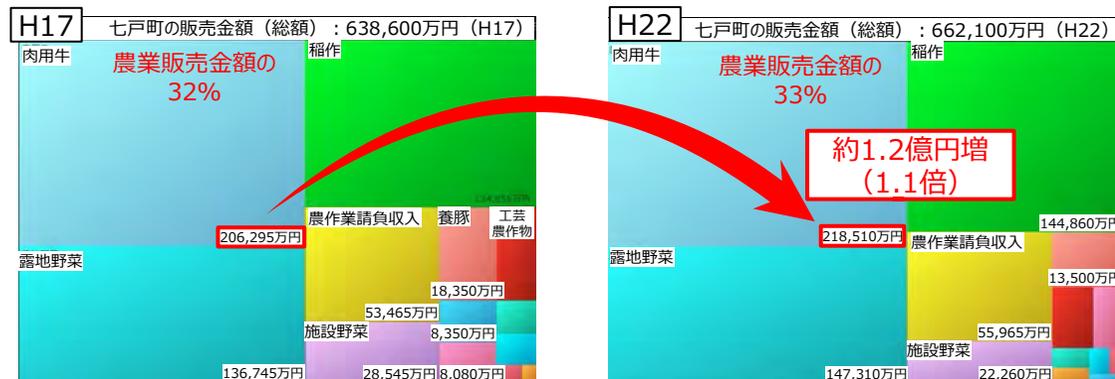
【事例②】

- ◆七戸町は肉用牛の取引が盛んな地域となっており、青森県畜産農協連合会では、県内各地の畜産農家より肉用牛を集めて、東京食肉卸売市場へ生体輸送している。
- ◆七戸バイパスの利用により、肉用牛の肉質保持に寄与し、取引額が向上している。

▼ 青森県畜産農協連合会の食肉の輸送ルート

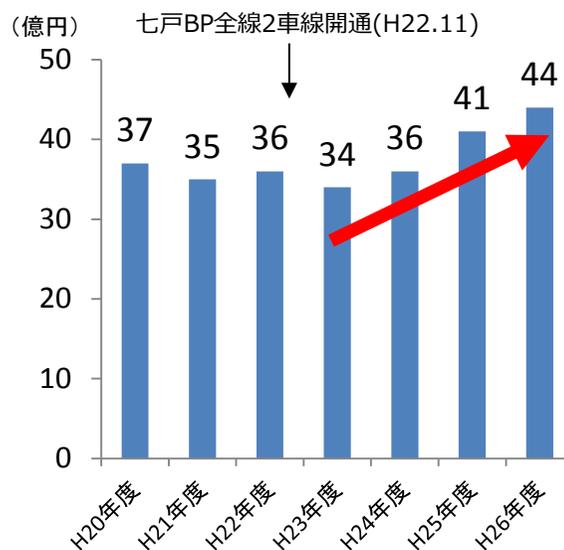


▼ 七戸町の農業花火図 農業部門別販売金額（総額）



資料：RESAS（地域経済分析システム）

▼ 家畜市場の取引金額の推移



資料：青森県畜産農業協同組合連合会提供資料

＜青森県畜産農協連合会の意見＞

- 旧道利用時は、急勾配やカーブが多く、牛の肩がぶつかり肉質が低下することがあった。
- また、生体での出荷は、**輸送時間の増大が牛のストレスとなり、肉質が低下する要因**の一つである。
- バイパス整備後は、線形不良箇所や市街地の回避により、**安定搬送、輸送時間の短縮が図られ、輸送時の肉質保持が実現した。**

(H28.1 ヒアリング結果)

2. 事業効果の発現状況 (3) 交通混雑の解消

- ◆七戸バイパスの現道交通量は、整備前後において、16,518台/日→3,882台と約8割がバイパスへ転換している。
- ◆また、現道の旅行速度は、整備前後において、37.1km/h→55.8km/hと、18.7km/h向上している。

▼ 整備前の現道の混雑状況



▼ 整備後の現道の混雑緩和状況

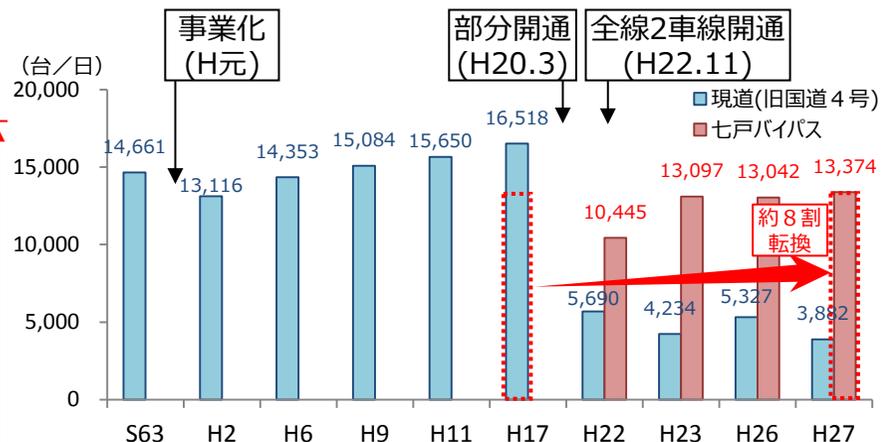


現道については、カーブしながら上ったり下ったりと、**かなり渋滞**していましたが、**七戸バイパスの開通後はそういったものがまったく無くなり、通過時間が短縮**しました。

七戸バイパス開通に関する座談会(H23.1.6)における七戸町長の発言



▼ 現道及び七戸バイパスの日交通量の推移



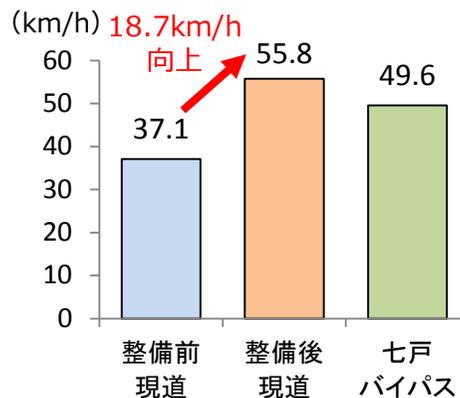
資料【七戸バイパス】

H22道路交通センサ※A'の位置
H23、H26トラクンデータ※B'の位置
H27交通量調査結果※A'の位置

【旧国道4号】

S63～H22道路交通センサ※Aの位置
H23、H27交通量調査結果※Aの位置
H26交通量調査結果※Bの位置

▼ 七戸バイパス整備前後における現道（旧国道4号）、バイパスのピーク時旅行速度の変化



資料：プローブデータ

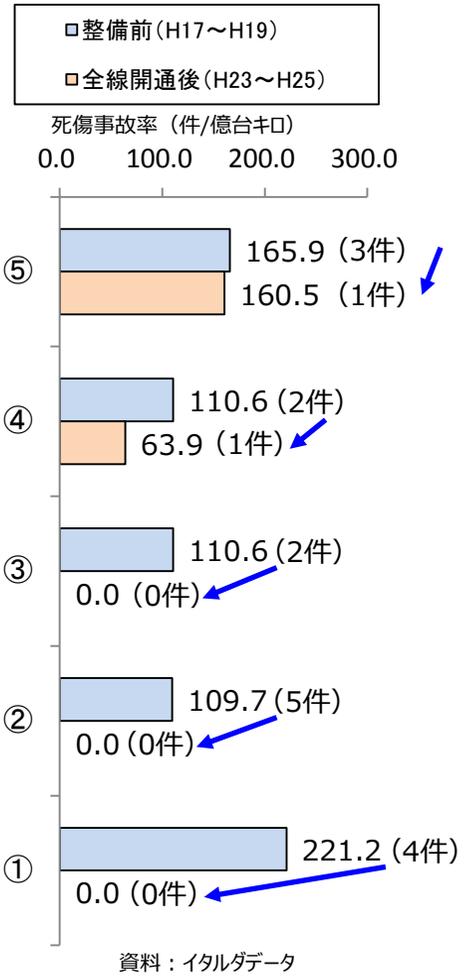
整備前：H15.11
整備後：H26.10

ピーク時（8時台）の速度

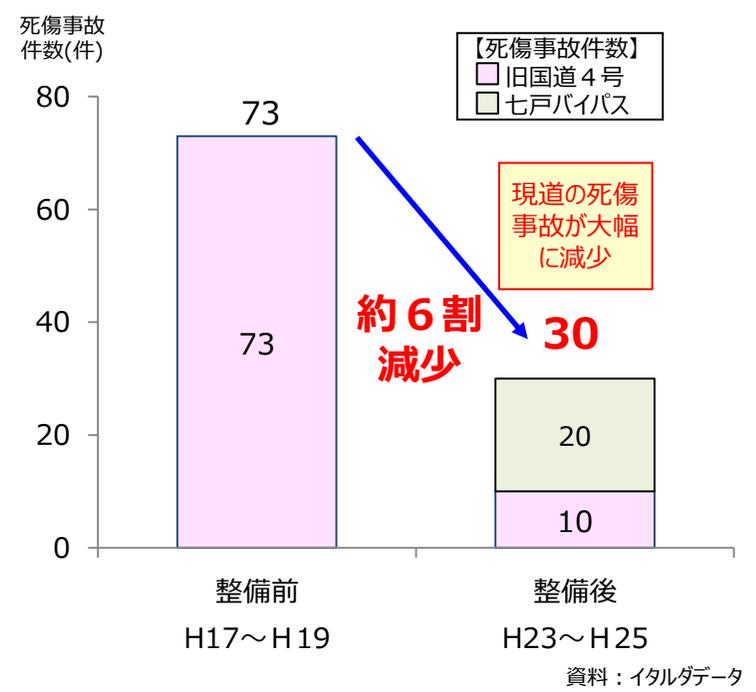
2. 事業効果の発現状況（4） 安全な交通の確保①

- ◆七戸町内の旧国道4号は急こう配、急カーブ等の線形不良箇所が多く、日交通量が1万5,000台を超えており、死傷事故率が高い交差点・区間が多く存在していた。
- ◆七戸バイパス整備後は、旧国道4号の交通量がバイパスへ転換したことにより、事故危険箇所の死傷事故率が軒並み減少し、安全な交通の確保が図られている。

▼ 死傷事故率100件/億台キロを超えていた交差点・区間の死傷事故率の変化



▼ 現道（旧国道4号）の死傷事故件数の変化

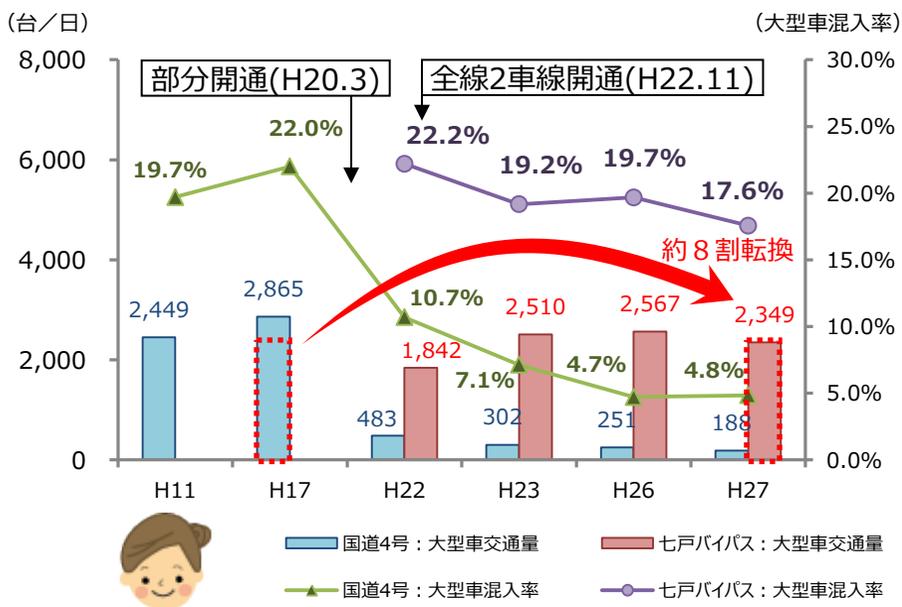


2. 事業効果の発現状況（5） 安全な交通の確保②

- ◆七戸町内の旧国道4号は大型車が多く走行しており、冬期は堆雪により、歩道がなくなり、通学児童が危険にさらされていた。
- ◆七戸バイパスの開通により、七戸バイパスと並行する旧国道4号の大型車交通量の約8割が七戸バイパスへ転換しており、通学児童の安全性確保につながっている。



▼ 大型車交通量（12h）の推移（A-A'断面※）



▼ 整備前の通学状況について

冬期は歩道がなくなり、車道を歩く小学生が危険にさらされていた



＜七戸、城南小学校教職員の意見＞

- 七戸バイパスが無かった当時、旧国道4号は大型車が多く、児童は毎日、交通事故の危険にさらされながら旧国道4号を利用して通学しており、教職員の心配の種となっていた。
- 七戸バイパスができて旧国道4号を通る**大型車交通量は少なくなり、とても安全になった。**

(H28.1 ヒアリング結果)

資料【七戸バイパス】
 H22道路交通センサス※A'の位置
 H23、H26トラカンデータ※B'の位置
 H27交通量調査結果※A'の位置
 【旧国道4号】
 S63～H22道路交通センサス※Aの位置
 H23、H27交通量調査結果※Aの位置
 H26交通量調査結果※Bの位置